

沖縄都県における
CKD 医療連携
(南城市、沖縄市・うるま市、那覇市)

沖縄県 代表 古波蔵健太郎

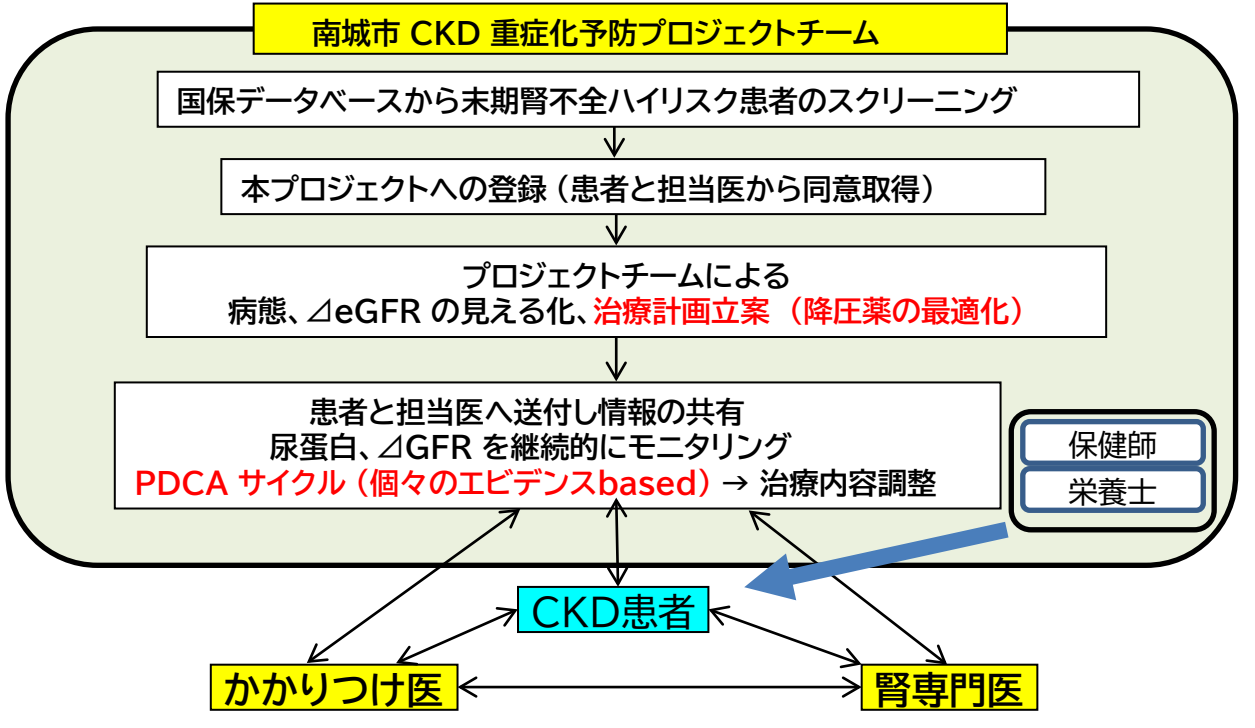
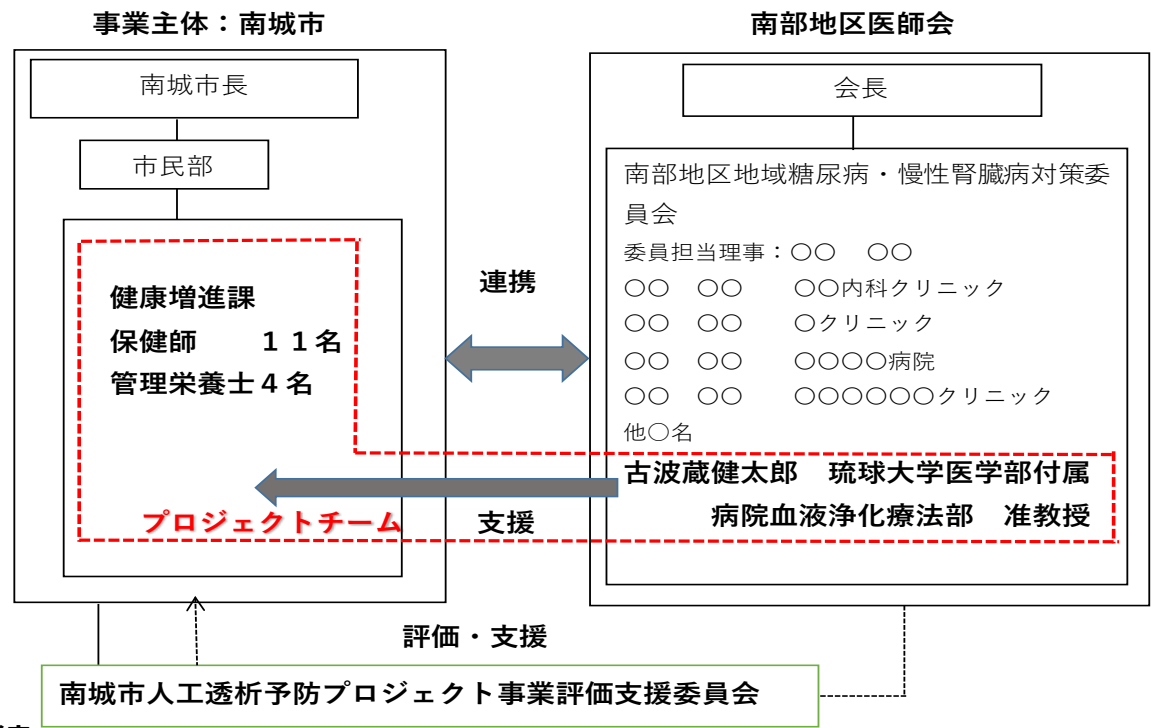
2022 年 9 月版

南城市慢性腎臓病重症化予防プロジェクト

南城市の国保医療費分析の結果、人工透析にかかる医療費割合が国の1.5倍と圧倒的に大きく、県下でもワーストであった。
 Dr.古波蔵との事例検討会で介入によって腎障害進展抑制が可能な患者が多くいることがわかった。

H28
プロジェクト開始

市の概況		
人口		45,045人
高齢化率		25.6%
後期被保険者数		5,353人
日常生活圏域数		4圏域



実績

- ✓ H28～R1 新規事例検討人数(延べ回数) 計135人(235件)
- ✓ 介入6ヶ月以上フォローできた 61例
- 介入前 Δ eGFR (mL/min/1.73m²) -3 → 介入後-0.5
- ✓ 新規透析導入 約7人 → 約4人, 透析医療費 -1.2億円/年

特徴

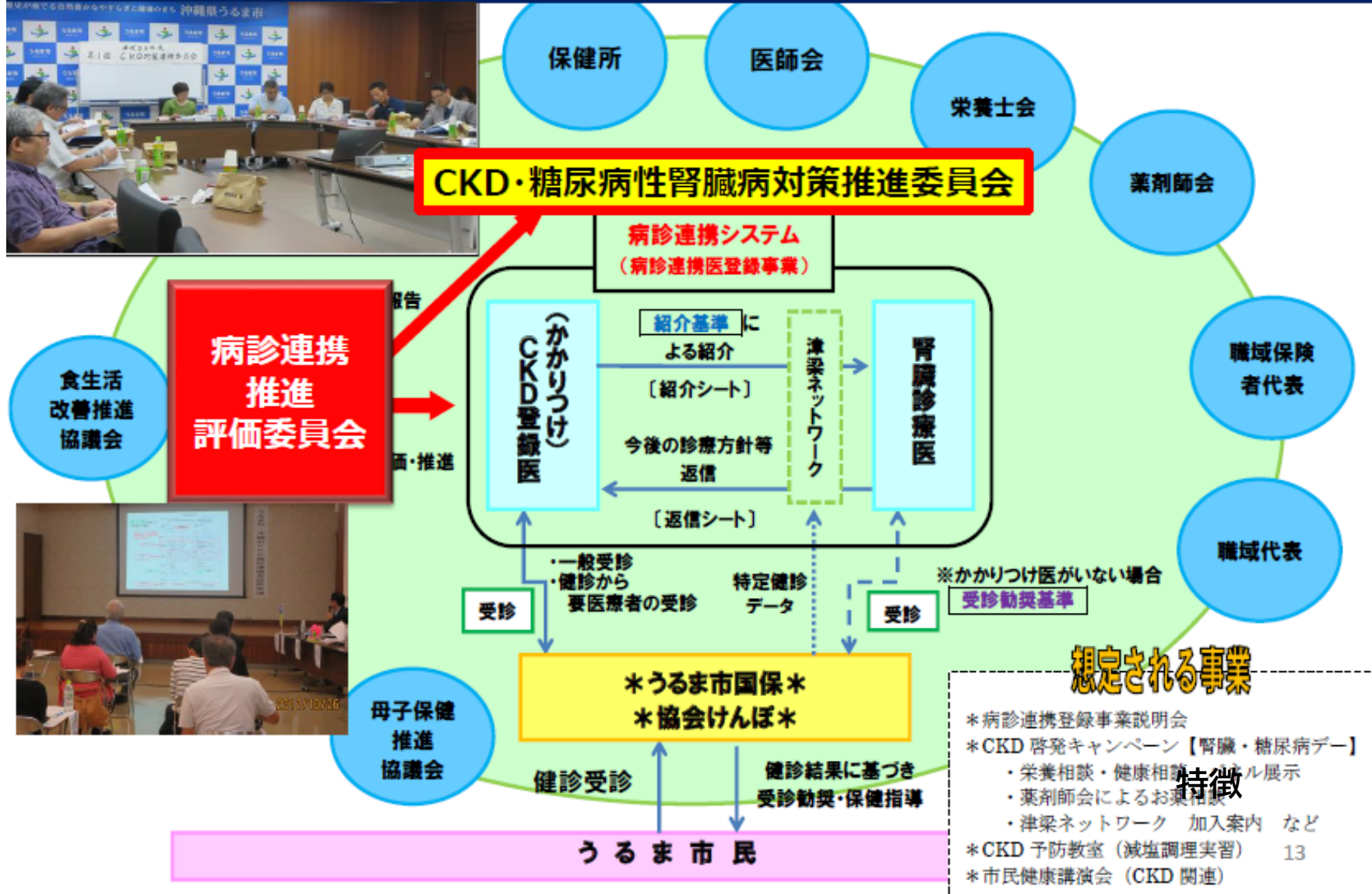
- ✓ 各患者の個別化治療を具体的に提案
- ✓ 経過をセントラルモニタリング
- ✓ PDCAサイクルで治療の見直しを提案

うるま市・沖縄市

CKD・糖尿病性腎臓病重症化予防推進体制



CKD・糖尿病性腎臓病対策推進委員会



- ✓ 中部地区医療圏の広範囲 (約26万人)をカバー
- ✓ CKD登録医制度、講演会
- ✓ 行政、地域医師会が中心になって運営

- 想定される事業**
- * 病診連携登録事業説明会
 - * CKD 啓発キャンペーン【腎臓・糖尿病デー】
 - ・栄養相談・健康相談
 - ・薬剤師会によるお薬相談
 - ・津梁ネットワーク 加入案内 など
 - * CKD 予防教室 (減塩調理実習) 13
 - * 市民健康講演会 (CKD 関連)
- 特徴**

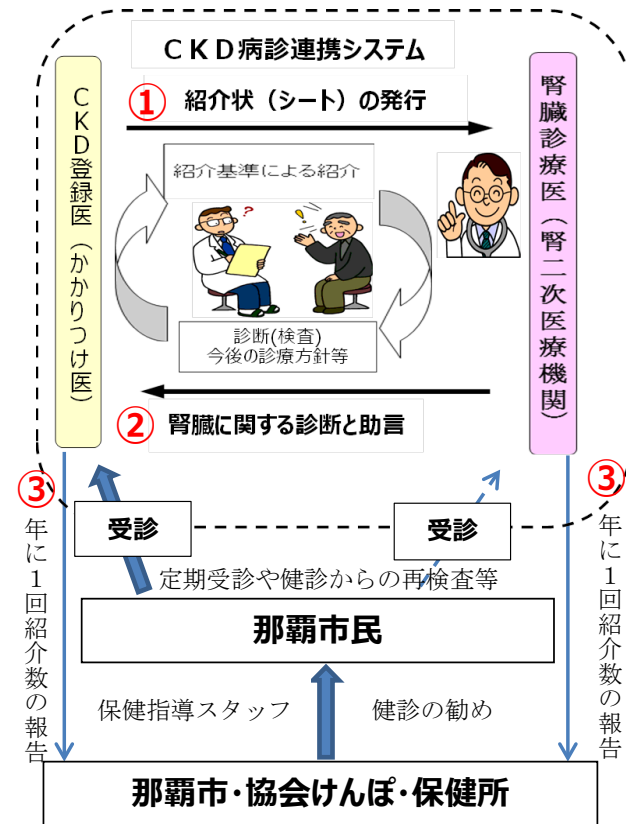
CKD重症化予防 那覇地区の態勢（参加施設数が県内最多の連携システム）

那覇市 CKD 病診連携システム（CKD48）

1. 目的

かかりつけ医と腎臓診療医が共通の紹介基準をもとに CKD 患者を紹介・逆紹介を行い、CKD 患者の重症化を予防する。

2. 那覇市 CKD 病診連携の流れ



- ① 紹介基準に基づき、かかりつけ医から腎臓診療医へ紹介
- ② 紹介を受けた腎臓診療医は、必要な検査・診断を行い助言等を行う
- ③ 年に 1 回、那覇市からのアンケートで紹介数や紹介を受けた数を報告

腎臓診療医紹介する際の基準 『CKD診療ガイドライン2018』に基づいて作成

eGFR 値 による紹介基準		* eGFR値 = ml/min/1.73m ²
①	40歳未満	60未満
②	40歳以上	45未満
③	3ヶ月以内に、30%以上の eGFR の低下	
蛋白尿による紹介基準		
④	尿蛋白 2 + 以上、または尿蛋白 / 尿Cr比0.5以上	
⑤	蛋白尿と血尿がともに陽性（1 + 以上）	
⑥	糖尿病がある場合は程度を問わず蛋白尿が陽性	



病診連携推進会議の様子



平成 27 年 10 月、那覇市長と医師会長は「那覇市慢性腎臓病（CKD）病診連携事業」を共同でキックオフ宣言。
平成 28 年 4 月から本格始動

『CKD 対策としての取り組み』

- ・腎専門医やかかりつけ医代表等からなる病診連携推進会議を開催（年 2 回）
- ・ニュースターの発行（年 2 回）
- ・腎臓診療医間の意見交換会（年 1 回）
- ・症例検討会（年 1 回）
- ・CKD 連携講演会の開催
- ・那覇市立病院にて CKD 教育入院の開始（H30 年 4 月～）

シークワーダーフォーティエイト、シークワーダーは CKD 48 から CKD 78 を目指して取り組んでいます！！

- ✓ 那覇市（35万人）をカバー
- ✓ CKD登録医制度、講演会
- ✓ 行政、地域医師会が中心になって運営
- ✓ 地区レベルで専門医とかかりつけ医の症例検討会

かかりつけ医 68 名（59 医療機関）、腎臓診療医 37 名（20 医療機関）が参加登録しています（平成 30 年 12 月現在）